

東日本大震災復興シンポジウム in 岩手

～震災復興をめざす男女共同参画社会～

平成 23 年 10 月 22 日（土）、岩手県盛岡市において、400 名余りの方にご参加いただき、「東日本大震災復興シンポジウム in 岩手」を開催しました。

冒頭、蓮舫内閣府特命担当大臣（男女共同参画）のメッセージ（代読：岡島敦子男女共同参画局長）、達増拓也岩手県知事の挨拶（代読：工藤孝男環境生活部長）があり、その後、谷藤裕明盛岡市長が来賓挨拶されました。

次に、第 1 部では、「東日本大震災津波からの復興に向けて」と題して、平山健一岩手県東日本大震災津波復興委員会委員より、現地報告が行われました。多くの写真やデータで岩手県の津波による被害の大きさを示し、全世界からの支援や緊急復興等について話しました。

続いて、清原桂子兵庫県理事より、「なぜ震災復興に女性の視点と参画が必要なのか」と題して基調講演が行われました。阪神・淡路大震災の経験から、家族と地域の重要性、しごとを通じた仲間づくり、民と官による協働、普段からやっていることの大切さについて話しました。復興基金の仕組みや復興基金事業例、また、女性の視点・生活者の視点からの生活復興について多くの取組事例を具体的に説明しました。

午後からの第 2 部では、「被災者一人ひとりの復興を実現するために」と題し、パネルディスカッションが行われました。4 人のパネリストが今回の震災にかかる活動等を紹介した後、復興へ向けたメッセージを述べました。また、会場からの意見も発表されました。

最後に、コーディネーターより、「復興へ向けた課題は山積しているが、今後の地域の防災計画の策定にあたっては、女性の声を活かして、男女共同参画の視点がさらに盛り込まれるよう、地域の話し合いに参加してほしい」と結びました。



（現状報告を行う平山委員）



（基調講演中の清原理事）



（パネルディスカッションの様子）

（参考：シンポジウムの概要）

趣旨 東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県において、長期にわたる復興の過程で、男女共同参画の推進がますます重要になっている。同県内の被災地で行われている救援・復興にかかる取組事例を共有しながら、復興支援における男女共同参画の意義・役割を、参加者とともに改めて考え、復興の一助とする。

日時 2011年10月22日（土）10：00～15：00

会場 いわて県民情報交流センター（アイーナホール 7 階）

主催 内閣府、岩手県、岩手県男女共同参画センター

協力 日本赤十字社

内容 【現地報告】 「東日本大震災津波からの復興に向けて」
報告者 平山健一さん（岩手県東日本大震災津波復興委員会委員）

【基調講演】 「なぜ震災復興に女性の視点と参画が必要なのか」
講師 清原桂子さん（兵庫県理事）

【パネルディスカッション】

テーマ「被災者一人ひとりの復興を実現するために」

コーディネーター：亀井千枝子さん（岩手県福祉総合相談センター児童女性部長）

パネリスト：佐賀敏子さん（山田町立山田南小学校校長）

平賀圭子さん（NPO 法人参画プランニング・いわて理事長）

盛合敏子さん（岩手県漁協女性部連絡協議会会長）

湯浅 誠さん（内閣府参与、内閣官房社会的包摂推進室長）